

出荷量日本一!

Xmas向けバラの出荷が本格化

日本一の栽培面積と出荷量を誇るJAひまわり(豊川市/代表理事組合長 権田晃範)の赤バラがクリスマスに向けて出荷が始まります。

例年にない長梅雨、夏場の猛暑により、バラ栽培に苦労しましたが、11月以降の天候が安定していたことや、炭酸ガス発生機の使用、細かな栽培管理により、花のボリュームが上がるなど、品質よく仕上がっています。

<u>JAひまわりのバラは市場から高い評価を受けています!</u>

同部会のバラは、出荷量が日本一で(160万本/年間)で、栽培品種は約150品種と多く、「花き日持ち品質管理認証制度」をとり、品質も高いと大手卸売市場より評価を受けています。

また、他産地では個人出荷が多い中、当JAではバラ部会を組織しており、部会員が

出荷物の全箱検査や定期的な目揃え会を行うなど部会の強み を活かし、高いレベルで均一性が保たれています。

クリスマス向けの工夫

秋に多くのバラの芽が出るので、適正量に間引くことで、 クリスマスに重量感のある品質の高いバラを出荷することが できます。また、同部会では季節に合わせて、出荷時のつぼ みの咲き具合を決め、お客さんに届いた時に花が咲くように 調整しています。

写真は(出荷時の咲き具合などを確認する部会員)。



<メディア対応日>

集合日時:令和2年12月11日(金)9:00

集合場所: JAひまわり中部営農センター(豊川市三谷原町北浦68-1)

取材者:井上祐子さん(48)

匍揚:豊川市麻生田町

中部営農センターに集合し、ハウスへ移動後取材となります。取材は、当JA職員と 生産者の井上さんが対応致します。なお、当日は収穫作業、出荷調整作業のみの取材 となります。取材する圃場の面積 1,100 坪。井上さんの圃場では8品種のバラを栽培 しています。

光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光

JAひまわりバラ部会

◆バラ部会の概要

昭和56年からバラの栽培に取り組み、36名の部会員が約18.5haの栽培面積で、約150品種のバラを栽培しています。年間約13億5千万円の売上げと年間1600万本の出荷量があります。これは、部会として日本一の生産量を誇っています。

メンバーには、30代の農家が9人いるなど、若くて活力ある部会です。

販売促進の活動も盛んで、毎年取引先の各市場を訪問し、販売対策会議を行っています。また市場とタイアップしてバラの無料配布などを年2回程度しています。

◆日本一のバラの生産地

当部会は、全国各地に出荷しており、品種や数量の多さ、品質の高さから市場から高い評価を受けています。また平成18年には第36回日本農業賞の集団組織の部で大賞を、平成19年には第46回内閣総理大臣賞を受賞しています。また平成28年6月には、生産者の普段の水揚げ、温度管理など品質を保つ為の管理について評価を受け「花き日持ち品質管理認証」生産部門を取得しました。

◆今年人気の品種

スタンダード品種…ミルナ+、サムライ08、アヴァランチェ スイートアヴァランチェ、イヴピアッツェ スプレー品種…シンディ、フレアー、シューティングスター、ファンシーローラ



人気の品種:

スタンダード品種の サムライ 08 (赤色)

スプレーバラの シンディ(オレンジ色)

当日は生産者の収穫の様子を 取材できます。





お問い合わせ先 JAひまわり企画課(森田・神谷)

TEL: 0533-85-3171

FAX: 0533-84-9881

E-mail: ja-himawari-kikaku@rondo.ocn.ne.jp

※この情報は、JAグループ愛知記者会、豊川市政クラブにおいてプレスリリースしています。

推准推准推准推准推准推准推准推准就在推准推准推准准准